

滝上の人

〜チャレンジ精神を大切に〜

今回は、四区 大野 徹さんにスポットをあてていきます。

子供の足で学校まで片道1時間近くを徒歩で毎日通いました。

大野さんは、昭和23年滝上町生まれの71才。四区の農家に生まれました。

大正期に高知県から祖父が入植し、大野さんで開拓3代目、現在は孫の代で5代目となります。学校は滝西小中学校に通いました。農村地域で、

大野さんが幼少の頃は畑作専業で、小麦やビートを栽培していました。兄弟は姉1人、妹2人で、中学生の頃には生計のため家業を手伝い、中学校の時に先生の勧めもあり、江別市にある野幌高等学校定時制農業科に進みました。高校は寄宿舎生活で、農繁期に

は実家の仕事の手伝いもあつたため、当時の国鉄渚滑線を利用して江別と滝上を往復したそうです。

「この学校で全道から集まった農業後継者と同窓になれたことは、人のつながりの部分で大きな財産です」と語ってくれました。

高校卒業後は？

「4年間の高校生活を終え、滝上に戻ってきました。私の希望で、畑作からの転換を模索し、21才の時に清水町の黒毛和牛の牧場で働きながら実習し肥育の基礎を学びました。そして、黒毛の和種雌素牛5頭を導入、現在まで50年にわたる牧場生活がスタートしました。私が23才の時に父親が病気で亡くなったため、家業の農業を引き継ぎました。

40才の時、同業の畜産農家とともに、アメリカ農業を視察しました。そのスケールの大きさを目の当たりにして驚いたことを思い出します。

また、本業でのつながりから、オホーツクはまなす農業協同組合の前身である滝上町農業協同組合の監事や町の農

業委員会委員（のち会長職）の職を引き受けたりと、地域で多くの仲間と助け合いながら仕事をすることができてうれしく思っています。

生産した肥育牛は現在では関西や四国まで流通し『オホーツクはまなす牛』の名称で販売されています。オホーツクの名を冠することができ地域のブランド力の向上に一役買うことができれば、生産者の一員として誇らしいことです」

社会福祉との関わりについて教えてください。

「現在、特別養護老人ホーム『溪樹園』、ケアハウス『アイビーハイツ』、『溪樹園デイサービスセンター』を運営する社会福祉法人の運営（理事長）にも携わっています。法人との関わりは15年ほど前から母親がデイサービスを利用するようになり、利用者の家族らも法人運営の一翼を担っていることを知りました。そして、農業の先輩である方の勧めもあって、運営に参加するようになりました。仕事の分野が違い、困惑す

ることもありましたが、日々働いている職員や協力いただいているボランティアのみなさんには感謝の気持ちでいっぱいです。私たちは創意工夫しながら働きやすい職場をつくっていきけるようサポートができればと思っています」

町民の方にひと言お願いします。

「滝上で生まれ育ち、様々な方達の支えがあって歩んで来れました。若い頃には何事にも懸命にチャレンジすることが大事であると思っています。私は農業を通じて、大変なこともありますが、様々な経験を積み、仲間と関わることで幸せに思います。

また、滝上はお年寄りが多くなりましたが、公共施設などで今よりもコミュニティの活動が増え、人の交流が深まっていけば良いと思っています」

前向きに物事に取り組む大野さん、たくさんのお話しありがとうございました。これからも活躍ください！

